

西米良村立西米良中学校

事業の実施時期：補助を受けた日から令和6年3月15日

活動の概要

株式会社シンク・オブ・アザーズ代表取締役の難波裕扶子さんに、SDGsに関する講演をしていただいた。それを受けて、「地域学習」や「村応援プロジェクト」の取組の中で環境についての考えを深めたり、村の学習発表会の場で学んだことについて劇を交えながら村民に向けて発表したりした。また、有志で「西米良中モッタイナイプロジェクト」を立ち上げ、使い捨てカイロや使わなくなった人形などの回収を行った。

SDGsの視点：「8働きがいも経済成長も」「12つくる責任 つかう責任」「15陸の豊かさも守ろう」

1 学校の概要

西米良村は、面積の96%を森林が占め、市房山を主とする山々や一ツ瀬川の自然に恵まれ、菊池則忠公の遺徳が今もなお息づいている村である。また、令和5年3月には「越野尾神楽」「小川神楽」「村所神楽」が西都市や木城町の神楽と併せた形で「米良の神楽」と名称を改め、国の重要無形民俗文化財に認定された。

本校は「社会性を身に付け、自ら考え、主体的に行動する生徒の育成」という学校目標のもと、教育活動を行っている。また、ICTを活用した学習が充実しており、情報端末を活用した学習については、県内でも最先端の取組を展開している。

・アザーズ代表取締役の難波裕扶子さんにSDGsに関する講演やワークショップをしていただいた。普段なかなか意識しないことに目を向け、日本や世界の現状が今どうなっているのか、また、自分たちにこれから何ができるかと考えを深めることができた。



2 活動のねらい

4RやSDGsの視点をもって、地域の資源や人材が豊富にある西米良村ならではの取組を行い、生徒たちに環境教育に対する理解を深めさせる。また、その取組を通して、自ら考え、主体的に行動し、地域に感謝・貢献するとともに、発信できる生徒の育成を図る。

(2) 地域学習（ゆず牛を飼育されている方の講話）

地域学習において、ゆず牛を飼育されている場所に見学に行き、講話をしていただいた。

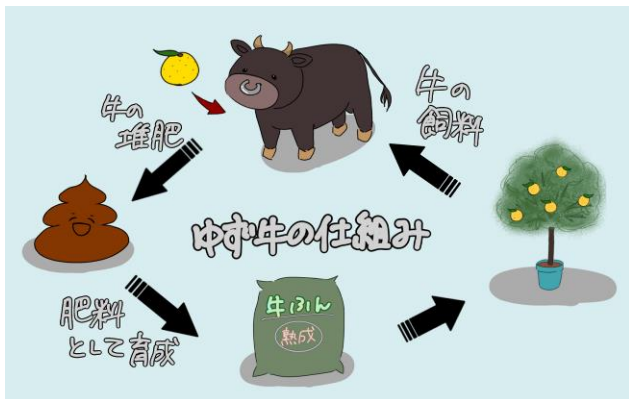
令和3年度から、ゆずを加工する時に出る残渣を、肉牛の飼料として活用する取組を始めた。試行錯誤しながら、肉質を高めるとともに、ゆずの残渣の廃棄物も4~5トンの量を減らすことができたそうである。それらを飼料とした肉牛は、ほんのりゆずの香りがし、肉質も良く、今後村外に向けて販売でき

3 活動内容

(1) SDGsに関する講演

全校生徒を対象に、株式会社シンク・オブ

るようにしていきたいと話されていた。講話で聞いた内容を、村の学習発表会で劇の一部に取り込んで紹介することができた。



(↑生徒作品)



(3) 村応援プロジェクト（やま体験）

3年生を対象として、森林組合の方々を講師として、熊本県の南陵高校の生徒と一緒に、枝打ちなどの体験を行った。

面積の96%を占める西米良では、循環型の森林育成など、森との向き合い方はとても大切であり、体験を通して、林業に携わる方々の想いを学び取ることができた。



(4) 使い捨てカイロや使わなくなった人形などの回収

有志で「西米良中モットイナイプロジェクト」を発足し、使い捨てカイロや使わなくなった人形などの回収を呼び掛けた。集まったものを、今年度は2回送ることができた。

使い捨てカイロは水の水質改善に利用され、使わなくなった人形や筆記用具などは、NPO法人「もったいないジャパン」を介して、必要な地域に送る活動を行った。



4 成果と課題

(1) 成果

年間を通して、SDGsに対する視点をもって様々な行事に取り組み、環境に対する意識を高めることができた。

(2) 課題

生徒たちの自発的な活動に結びつけられなかった。今後さらに主体的活動につながるように、問題意識を高める手立てを工夫したい。

学校名：西米良村立西米良中学校

住所：児湯郡西米良村大字村所 270 番地 1

電話番号：0983-36-1224

E-mail：4523ja@miyazaki-c.ed.jp